

# 森の贈り物研究会

びより 60 号

寄席文字 澤登 健氏 主宰 花岡 崇一

編集；森の贈り物研究会

<http://www.bdvision.co.jp>

東京都中央区東日本橋 3-8-1

東日本橋コーポラス 1F

TEL 03-3249-0421

E-mail:hanaoka@bdvision.co.jp

## 目次

3 年目の伊達市→見附市移動教室	・・・ p.1
本の紹介	・・・ p.3
里山宇宙	
バンクーバー便り	・・・ p.3
水俣の袋から①	・・・ p.4
「学校の窓から」①～自己紹介にかえて～	・・・ p.6
編集後記	・・・ p.6

### 3 年目の伊達市→見附市移動教室

福島第一原子力発電所原子炉メルトダウン事故による放射能汚染から子どもたちを守るために取り組んできた 5 年生を中心にした伊達市の子どもたちを新潟県の見附市に学級ごと送る「移動教室」は 3 年目を迎えました。恐る恐る始めた 1 年目は、見附市教育委員会・学校・見附の子どもたちの温かい受け入れによって大きな成果をあげました。3 泊 4 日、汚染地を離れ思い切り運動や勉強が出来ればという思いで、見附市の学校の空き教室をお借りして平常の授業を計画しました。ところが、大きな横断幕や子どもたちの歓迎の出迎えからはじまり、共に学ぶ授業、水泳、はては学年運動会、郷土芸能の練習、社会科見学と自然体験、涙のお別れと新しい交流教育の可能性が奥羽山脈を越えて生まれました。2 年目、学年 100 名を超える学校で交流は難しく、遠野市のご厚意で早池峰神社脇の遠野ふるさと学校を

丸ごとお借りして実施しました。

3 年目の今年は大きく様変わりします。文部科学省・福島県が予算措置をして、福島県全小中学校を対象に一週間の自然体験・交流活動ができるようになったのです。その事業の説明会が、4 月 8 日福島市でありました。実践事例発表に伊達市教育委員会学校教育課長の佐藤喜夫さんが紹介されました。佐藤さんは計画の段階からかかわり、毎年見附市に同行して陣頭指揮を執った方です。森の贈り物研究会を事務局に長澤悟先生が組織された移動教室支援委員会の通信 5 号の記事をもとに、各学校が困難を乗り越え実施した後の喜び、成長を語られました。伊達市は「復興教育の柱に子どもの自立を促す活動」として移動教室を位置づけていること、将来できれば見附の子たちを招いて交流を深めることを考えています。

会場には、山形、神奈川、東京、愛知、香川、兵庫、宮崎などから 30 を超える支援団体が集まりました。夏季・冬季に親子を受け入れている団体です。川崎市民の会は今年大規模学校を 2 校川崎に招きま。NPO 法人シャロームは支援委員会に加わり、昨年・今年と山形県河北町の学校で「移動教室」に取り組んでいます。シャロームの吉野さんは、福島市の除染が済んだ運動場でも線量が高いところが残る斑状態があることを突き止めています。でも、再除染の費用は予算化されていない現状を報告しています。汚染から子どもたちを守る活動はまだ必要です。支援委員会は今年も伊達市→見附市を応援します。そして、小規模校同士の交流は子どもの積極性や自信を培うのにとっても有効な手立てであることが明らかになったので、新たな交流に挑戦します。

26年度の予定

学校名	実施月日	受け入れ校	学校名	実施月日	受け入れ校
富成小	5/27～5/30	見附市上北谷小	伊達東小	9/9～9/12	見附市今町小
堰本小	6/10～6/13	見附市新潟小	保原小	7/14～7/17	川崎市
月舘小	6/24～6/27	河北町溝延小	伊達小	9/9～9/12	川崎市

平成26年度

移動教室支援委員名簿

no.	氏名	地域(自宅ないし職場)
1	阿部 元樹	東京・港区
2	石井 禎	東京・新宿区
3	板橋 敏夫	東京・墨田区
4	上岡 榮信	東京・中央区
5	宇田川 潔	神奈川・鎌倉市
6	大西 長利	千葉・印旛郡
7	大西 秀樹	兵庫・三木市
8	岡田 達郎	東京・千代田区
9	柿澤 一氏	東京・世田谷区
10	加藤 雅人	東京・千代田区
11	金子 智美	東京・渋谷区
12	兼平 慎	東京・港区
13	鴨池 治	宮城・仙台市
14	菊地 文明	神奈川・横浜市
15	楠木 由希子	東京・渋谷区
16	小松 正人	千葉・浦安市
17	篠原 拓也	東京・港区
18	島村 登	千葉・浦安市
19	集貝 光男	東京・区中央区
20	杉田 二郎	愛知・名古屋市
21	瀬川 隆史	東京・新宿区
22	高田 久志	東京・品川区
23	田中 照彦	千葉・市川市
24	千葉 貞郎	東京・世田谷区
25	手塚 信也	東京・港区

no.	氏名	地域(自宅ないし職場)
26	寺澤 則忠	東京・町田市
27	寺山 昭英	千葉・柏市
28	奈良 美知子	東京・渋谷区
29	10 成田 芳政	東京・板橋区
30	西端 由和	東京・板橋区
31	野島 明子	東京・新宿区
32	野中 由美子	東京・練馬区
33	野中 勉	東京・練馬区
34	早崎 幸太郎	東京・港区
35	平尾 賢二	東京・千代田区
36	平松 園枝	東京・渋谷区
37	藤崎 節男	東京・練馬区
38	本田 賢右	東京・八王子市
39	松野 伸也	神奈川・川崎市
40	松原 章隆	東京・渋谷区
41	丸 広幸	東京・世田谷区
42	丸山 利昭	愛知・春日井市
43	宮本 雄司	東京・墨田区
44	望月 幸泰	北海道・苫小牧市
45	安田 剛	東京・府中市
46	山口 幸夫	神奈川・川崎市
47	山下 泰弘	東京・杉並区
48	山本 典之	東京・港区
49	山本 恒夫	神奈川・横浜市
50	渡邊 実	東京・千代田区

※今年度はグループでまとまった募金をお願いします。

※入金方法は E-mail: hanaoka@bdvision.co.jp  
にご一報ください。

## 本の紹介

「食の戦争」～米国の罠に落ちる日本～

文春文庫 2013.8 刊

著者 鈴木宣弘

東京大学大学院教授

専門 農業経済学



オバマ大統領の来日に合わせて、TPP 交渉が大詰めを迎えた。TPP については賛否両論がある。私の関心はどう決着してもグローバル社会の中で、我々庶民はどう生きていいのか、生きられる

のかという思いだ。

コメ、小麦、牛肉など主要 5 品目の関税がどうなるかにマスコミの関心は向けられているが、著者は農林水産省の担当者として交渉の裏側で行われてきたことに危機感を持っている。例えば、「遺伝子組み換えでない」という食品の表示が出来なくなる可能性がある。アメリカにこの表示はないのだから。大豆はほとんどが輸入に頼っている。大豆を原料とする食品に納豆がある。遠野で「国産大豆、遺伝子組み換えでない」とい表示の納豆を食べた。これが「国産大豆」になっても、この大豆の種が遺伝子組み換えのものでないという保証はない。

アメリカは TPP 交渉に日本が参加することをなかなか認めなかった。この間に参加を認める代わりに、多くの規制緩和を日本に突きつけたという。食品添加物や農薬の安全基準の緩和。保険では、相互扶助の共済の税制優遇が邪魔などなど。参入表明 1 か月前、狂牛病の輸入制限 20 ヶ月以下が 30 カ月に緩和されたのは周知の事実だ。果ては、学校給食に地元の食材を使う地産地消の奨励策も参入障壁だという。

TPP 後、一番怖いのは農業者が「農業に取り組む意欲」を失うことだ。我々消費者は安さだけの追求でなく、本気で「安全で、おいしい農作物」を造る農業者と連携し、励まし、注文をつける間柄を築くことだ。その地域に合った農作物と水とエネルギーを確保できる眼の届く自立地域を創ることがグローバル世界を庶民が生き抜く道ではないだろうか。

## 里山宇宙

～考えと考え 仕事と仕事 人と人をつなぐ～

### 第 53 回「バンクーバー便り」

2014 年 3 月 23 日・番場 健司

以前にもこのコーナーで 3 回（第 18、23、30 回）



北極冒険家の荻田 泰永氏を紹介しました。今回は、彼の今年のチャレンジについてレポートします。

荻田氏は、2000 年の徒歩による北磁極到達以来、この 13 年間ほぼ毎年カナダ・北極圏に通ってきました。その集大成として、単独無補給・800km の徒歩行で北極点への到達を目指し、過去 2 回チャレンジしてきましたが未だ成し得ていません。これまでに成功したのは世界で 2 人、彼が成功すれば 3 人目、

日本人としては初の快挙となります。最近では2003年にイギリス人が到達して以来、これまでの間 単独無補給での到達者はいませんでした。到達者が現れなかったのは、温暖化により海面が十分に凍らないこともあります。そうしたことを考えると、昨今は時間の経過とともに難易度が高まってきています。極地冒険家としての資質・経験はもちろんですが、自然状況も含めた環境が整ってはじめて成功の可能性が生まれてきます。

荻田氏は北極入りする前の2月中旬、カナダ・バンクーバーにて装備や食料の準備をしました。その際に私のところに立ち寄り、旧交を温めつつ今回の装備品を教えてもらいました。これまでの経験から、ドライ・スーツやフォールディング・カヤックを新たに持ち込みました。北極の海は、水深4000m位の深い海の表面3m程が凍っているだけの薄膜のような氷なので、その海氷は海流や風の影響で常に流れ動き、ぶつかり合うことで10m以上の大きな壁のような乱氷を作り、引き合えば大河のような大きな割れ目(リード)となります。2000年代以降になって、幅が数100m以内のリードであれば、水を通さず浮くドライ・スーツを着て泳いで渡るといった手法が現れました。しかしこのスーツで泳ぐにも限界があります。ここ数年間、多くの北極点を目指す冒険家が、幅が数キロにも開いた巨大なリードに足止めを受けて、リタイアせざるを得ないということが起きています。今回、荻田氏はドライ・スーツでは泳ぎきれないリードはフォールディング・カヤックで渡ることを考えています。北極の環境変化に対応した新たな試みであり、何としても北極点へ到達したいという並々ならぬ彼の決意が伺い知れます。

私も2000年に荻田氏と共にカナダ・レゾリュートから北磁極点までの700kmを徒歩で到達した経験があります。このときは2度の食糧・燃料等の補給を航空機により受けました。その時に引いたソリの重量が約70kg程度、今回 荻田氏が引くソリの重量はスタート時で約100kgを超えます。乱氷帯の上を人力で引くことやカヤックでの移動を考えると、その重量は限界ではないでしょうか。

荻田氏は出発地点となるディスカバリー岬へレゾリュートからのチャーター便で3月7日に着陸、そこからスタートして現在もひたすら北極点へ向けて歩んでいます。出発当初は乱氷帯に行く手を阻まれ、一日に4km程度しか進めない日もありましたが、この数日は一日に8km近くの距離を北上中で、3月23日現在は北緯83.726度、西経77.317度の位置です。この先順調にいけばあと40日間程度で残りの700kmを踏破、4月末日辺りに北極点に到達します。ご興味のある方は、HP

(<http://northpoleadventure.jimdo.com/>最新情報/)で最新の進行状況が確認出来ます。是非、応援ください！

### 水俣の袋から①

金刺 潤平

南九州に位置する水俣は、竹の増殖による農地や山林へ浸食が続いている。孟宗竹、マ竹、コサン竹からメ竹、矢竹と竹の種類も豊富で、ぐるりと一回り散歩すれば、買わずとも筍の二、三本は、手に入る。その昔は、立派に生活を支える有用な資材だった。私は、和紙屋で、故水上勉先生との御縁で竹でも紙を漉いているのだが、15年程前に地元の小学校生に卒業証書を漉かせるために育てていた楮の畑が、マダケに呑み込まれて全滅した経験がある。

私が水俣に移住した30年ほど前、水俣の人口は3万7千人、袋地区は、6千人だったのだが、今は、水俣全体で2万5千人、袋地区は、4千人にまで減少している。若者が居ないわけではないが、農業を中心に担っている人は、70歳代である。この状況の中で、せつかく植林した杉檜の経済林の間伐が行えないように、伐竹して竹林の管理を望む事は、到底できない。

多勢に無勢ではあるが、3年程前から国内外を問わず、若いボランティアたちを集めて竹を伐採しては、竹炭を焼いていて、細やかな抵抗を始めた。竹



炭にしているのは、炭素固定と竹の用途が特になからである。JNC（チッソ）は、竹からのバイオエタノールの実証プラントを作り成功させているが、その後動きが無い。鹿児島県川内市にある中越パルプは、週に一日竹パルプの製紙日を作っているが、水俣市の農水課に訊ねたところ、竹林1平方メートルあたりにかけられる予算が16円しかなく、とても整備伐採という段取りは作れないという事であった。竹林というより、竹藪となってしまっている状態で、足元の状態は、極めて悪い。竹材としての需要が出て来ても、今の状態では、まとまった量をコンスタントに伐採運び出すのは、困難な状況だ。

特に竹炭の専門家でもない私は、インターネットや本で集めた知識、多孔質であることの特徴を考え竹炭の利用を思考した。しかし、浄水、調湿、吸着、土壌改良等これまでに出来た物以外の利用法は、思いつかない。ボランティアからも竹炭作って何にするのかと質問攻めにもあった。伐採することが一番の目的で炭化しておけば炭素固定できて温室効果ガス二酸化炭素発生低減につながるなんて、理屈の説明でかわし続けた。そんな今年の冬、ふと、も

とも炭なのだから燃料として使ってみたらどうなんだろうと考えた。

竹は、ケイ酸質が多く、燃焼させると短時間に高温となってすぐに燃え尽きる。そのことが釜や燃焼室炒める原因となるため、燃料として使われていない。竹炭にするとどのような変化が生まれるのか、興味深々だった。幸いにして、仕事場の暖房器具として薪を使いだるまストーブを入れているし、風呂も天日と薪で沸かしている。炭は、上の方から着火して下の方に向かって火が回るが、煙突があって空気の対流が起きるので、両方とも燃焼のさせ方には、何の工夫もしなかった。結果は、驚くほど、快適に都合よく熱を発生させた。

毎年、いやというほど誕生して、あっという間に成長し、使われるあてもなく放置されて、邪魔者扱い。更には、その増殖スピードが速く、農地、山林に被害を与えてしまっている竹。竹炭を焼くのに複雑で難しい機械はいらない。少しのスペースがあれば、竹林周辺にも簡単に作ることができる。竹炭を再生可能なバイオマスエネルギーとして考えられないかと思うようになった。



檜林に侵食する竹の伐採運び出し



仕込み



仕込み終わって、はい、ポーズ



炭化まであとわずか



出来上がった竹炭



窯だし

## 「学校の窓から」①

### ～自己紹介にかえて～

MOKU・MOKU（公立小学校教頭）

木造校舎が好きだ。

木造校舎の階段の手摺りが好きだ。握れるサイズのものではない。後ろ向きに跨がり抱きかかえて滑り降りるのに十分な安定感があるサイズのものだ。幅 20 cm はなくてはいけない。角材ではなく丸太で拵えた中央がやや膨らんだもの。人の肌と衣服が皮脂で磨きあげた鮎色の。あんなに気持ちいいものはない。何故あんなに気持ちいいものを学校からなくしてしまったのだろう。

多動・自閉等の発達障害がある子どもの割合が高くなってきている。背景や原因については色々と議論のあるところだが、普通教室で落ち着かない子が増えたということは疑いようのない事実だ。

私も落ち着かない子どもの一人であった。小学校低学年の頃は何か休み時間にはよく床の上に寝転んだり腹ばいになっていたし、高学年の頃は授業中の無駄口がひどく担任の先生に足を踏まれたり頭にげんこつを落とされたりしていた。落ち着きのない子どもだった私の木造校舎への憧憬は、触れているだけで不思議と落ち着く手摺りや床の肌合いの記憶にある。感触だけではない。湿度・温度や匂い、音などをひっくるめての肌合いだ。

音と言えば、コンクリート造の校舎と木造校舎の中で発生する音を収集して比較・解析したレポートを昔読んだことがある。コンクリート校舎の中では、木造校舎の中では検出されない、人の心を落ち着かなくさせる刺激音が多く出ているのだそうだ。

住環境でも学習環境でも人の居場所を考えるなら快樂主義がよい。安全が最重視されるのは当たり前だが、次に来るのは心地よさだろう。気持ちいいことは善だ。子どもの心の安定を主眼に置いた学校建築、学校家具の思想が確立普及されなければなら

ないのではないか。「木製手摺り木床再生会議」が待たれる。

## 編集後記



A-WASS 誕生

2月1日、「木と建築で創造する共生社会研究センター」は、個人会員制の「実践研究会」に継続・再生しました。個人と地域、地域と地域、人間と自然の共生の有様を明らかにし、持続可能な循環社会を目指し、調査、研究をして実践する研究会です。この写真は発足会のものです。森の贈り物研究会が事務局になったので、「移動教室支援委員会」通信は「たより」の中に同居。「たより」は隔月の奇数月発行にします。

里山宇宙の金刺さんは熊本県水俣で和紙の紙漉き工房を営み、伝統の技を引き継ぐとともに新しい創作に挑戦している方です。作家石牟礼道子さんの見守りもしています。先日お訪ねしたとき、写真の海外からきた若者たちにも会いました。工房のだるまストーブのやわらかい温かさが懐かしいです。MOKU・MOKUさんには「学校」という「世間」に身を置くと私たちの「世間」がどう見えるのか、「学校」という「世間」はどう考えるのか、綴ってもらいます。

（花岡）